

県内の景気動向

概況（2022年5月）

景気は、持ち直しの動きがみられる

建設関連では、新設住宅着工戸数、建設受注額は前年を上回る

観光関連では、入域観光客数は前年を上回る

消費関連は天候や海外情勢に左右された点はあるものの、行動制限がなく外出機会が増加したことなどにより、消費マインドの向上がみられ、下げ止まりの動きがみられること、建設関連は資材価格が上昇するものの、民間工事に再開の動きがみられ、下げ止まりの動きがみられること（上方修正）、観光関連は行動制限のない状況のなか、ゴールデンウィークを中心に旅行需要の高まりがみられ、持ち直しの動きがみられること（上方修正）から、総じて県内景気は持ち直しの動きがみられる（上方修正）。

消費関連

百貨店売上高は、3カ月連続で前年を上回った。降水量の増加に伴い来店客数の減少がみられたものの、母の日ギフト需要や催事企画による集客・買い回り効果がみられたことなどにより前年を上回った。スーパー売上高は、降水量の増加に伴う気温低下により衣料品が減少したことなどから既存店・全店ベースともに2カ月ぶりに前年を下回った。新車販売台数は、長引く半導体不足や、上海ロックダウンによる部品調達難などが影響し2カ月ぶりに前年を下回った。家電大型専門店販売額（4月）は、2カ月ぶりに前年を上回った。

先行きは、新型コロナウイルスの影響により引き続き不透明感はあるものの、人流回復に伴う消費マインド向上が期待され、徐々に持ち直しに向かうとみられる。

建設関連

公共工事請負金額は、県、独立行政法人等・その他は増加したが、国、市町村は減少したことから2カ月連続で前年を下回った。建築着工床面積（4月）は、居住用は増加したものの、非居住用は減少したことから3カ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数（4月）は、貸家は減少したが、持家、分譲、給与は増加したことから2カ月連続で前年を上回った。県内主要建設会社の受注額は、公共工事、民間工事ともに増加したことから4カ月連続で前年を上回った。建設資材関連では、セメントは5カ月連続で前年を下回り、生コンは2カ月ぶりに前年を下回った。鋼材売上高は鉄スクラップなど原材料の需給ひっ迫により単価の上昇がみられることなどから前年を上回り、木材売上高は需給ひっ迫により木材価格が上昇したことなどから前年を上回った。

先行きは、資材価格などが上昇しているものの、民間工事に再開の動きがみられることなどから下げ止まりの動きがみられる。

観光関連

入域観光客数は、6カ月連続で前年を上回った。国内客が増加し、外国客は引き続き0人となった。県内主要ホテルは、稼働率、売上高、宿泊収入は6カ月連続で前年を上回った。主要観光施設入場者数は3カ月連続で前年を上回った。ゴルフ場は、入場者数は3カ月ぶりに減少、売上高は3カ月連続で前年を上回った。前年同月とは異なり、行動制限がなく、ゴールデンウィークを中心に旅行需要の高まりがみられた。

先行きは、2022年6月より水際対策が緩和され、那覇空港においても2年ぶりに訪日外国人観光客の受け入れが段階的に再開されること、また国内においても、観光需要回復の動きが明確にみられることから、持ち直しに向かうとみられる。

雇用関連

新規求人数（4月）は、前年同月比 22.3%増となり 13 カ月連続で前年を上回った。サービス業、宿泊業・飲食サービス業などで増加した。有効求人倍率（4月、季調値）は 0.92 倍で、前月より 0.07 ポイント上昇した。完全失業率（4月、季調値）は 2.9%と、前月より 0.3 ポイント低下した。

その他

消費者物価指数（4月）は、前年同月比 2.9%の上昇となり、7 カ月連続で前年を上回った。生鮮食品及びエネルギーを除く総合は同 0.7%の上昇となった。

企業倒産は、4 件で前年同月を 3 件下回った。負債総額は 1 億 2,000 万円で、前年同月比 91.2%減となった。

りゅうぎん調査（2022年5月）

増減率(%)

	前年同月比	前年同期比 (2022.3-2022.5)
1. 消費関連		
(1) 百貨店(金額)	9.2	5.4
(2) スーパー(既存店)(金額)	▲ 1.4	0.2
(3) スーパー(全店)(金額)	▲ 1.6	0.3
(4) 新車販売(台数)	▲ 30.8	▲ 13.5
(5) 家電大型専門店販売額(金額)	(4月) 5.4	(2-4月) 0.1
2. 建設関連		
(1) 公共工事請負金額(金額)	▲ 51.1	▲ 5.9
(2) 建築着工床面積(m ²)	(4月) ▲ 11.2	(2-4月) ▲ 21.6
(3) 新設住宅着工戸数(戸)	(4月) 7.3	(2-4月) ▲ 5.1
(4) 建設受注額(金額)	P 39.7	P 131.7
(5) セメント(トン数)	▲ 14.8	▲ 4.6
(6) 生コン(m ³)	▲ 6.7	4.6
(7) 鋼材(金額)	P 17.0	P 21.6
(8) 木材(金額)	8.2	12.8
3. 観光関連		
(1) 入域観光客数(人数)	103.3	61.4
うち外国客数(人数)	0.0	0.0
(2) 県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 20.2	(前年同期差) 15.6
	(実数) 37.6	(実数) 36.4
(3) " 売上高(金額)	71.3	40.7
(4) 観光施設入場者数(人数)	P 100.3	P 46.7
(5) ゴルフ場入場者数(人数)	▲ 6.5	4.0
(6) " 売上高(金額)	4.6	12.9
4. その他		
(1) 県内新規求人数(人数)	(4月) 22.3	(2-4月) 18.4
(2) 有効求人倍率(季調値)	(4月、実数) 0.92	(2-4月、実数) 0.87
(3) 消費者物価指数(総合)	(4月) 2.9	(2-4月) 1.7
(4) 企業倒産件数(件数)	(前年同月差) ▲ 3	(前年同期差) ▲ 1
(5) 広告収入(県内マスコミ)(金額)	(4月) ▲ 0.2	(2-4月) ▲ 4.2

(注1) 公共工事請負金額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。建築着工床面積、新設住宅着工戸数は国土交通省調べ。県内新規求人数、有効求人倍率は沖縄労働局調べ。入域観光客数、消費者物価指数は沖縄県調べ。

企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

(注2) 2022年4月より家電卸売販売額から家電大型専門店販売額へと更改した。

(注3) ゴルフ場は、2021年4月より調査先を8ゴルフ場から6ゴルフ場とした。

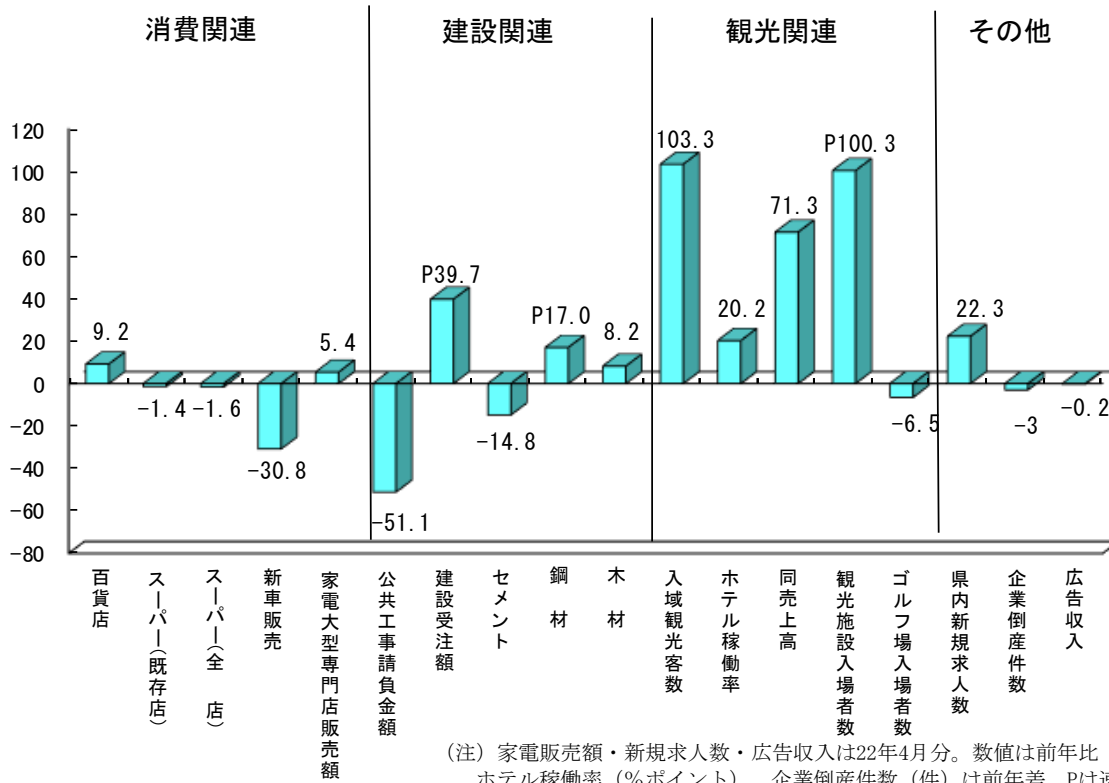
(注4) 主要ホテルは、2021年11月より調査先を28ホテルから27ホテルとした。

(注5) 2016年7月より企業倒産件数の前年同期差は、3カ月の累計件数の差とする。

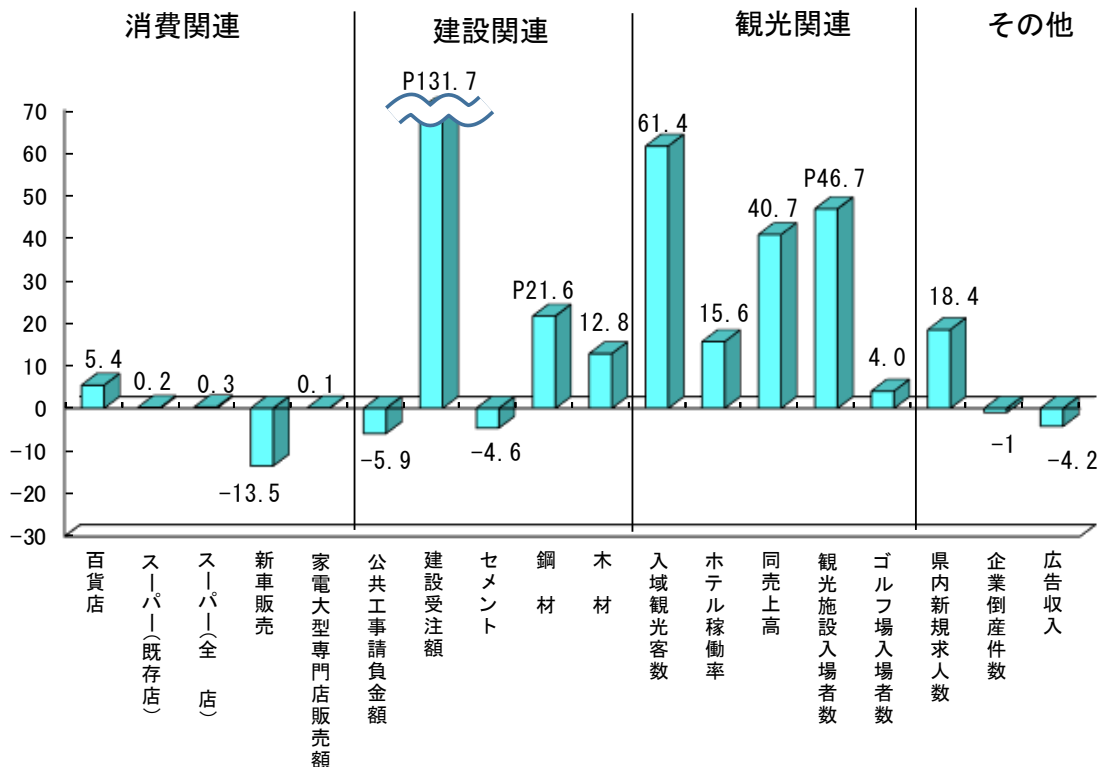
(注6) 建設受注額は、2021年1月より調査先を18社から17社とした。

(注7) 有効求人倍率(季調値)と県内新規求人数(人数)は、就業地ベース。

項目別グラフ(単月、2022年5月)

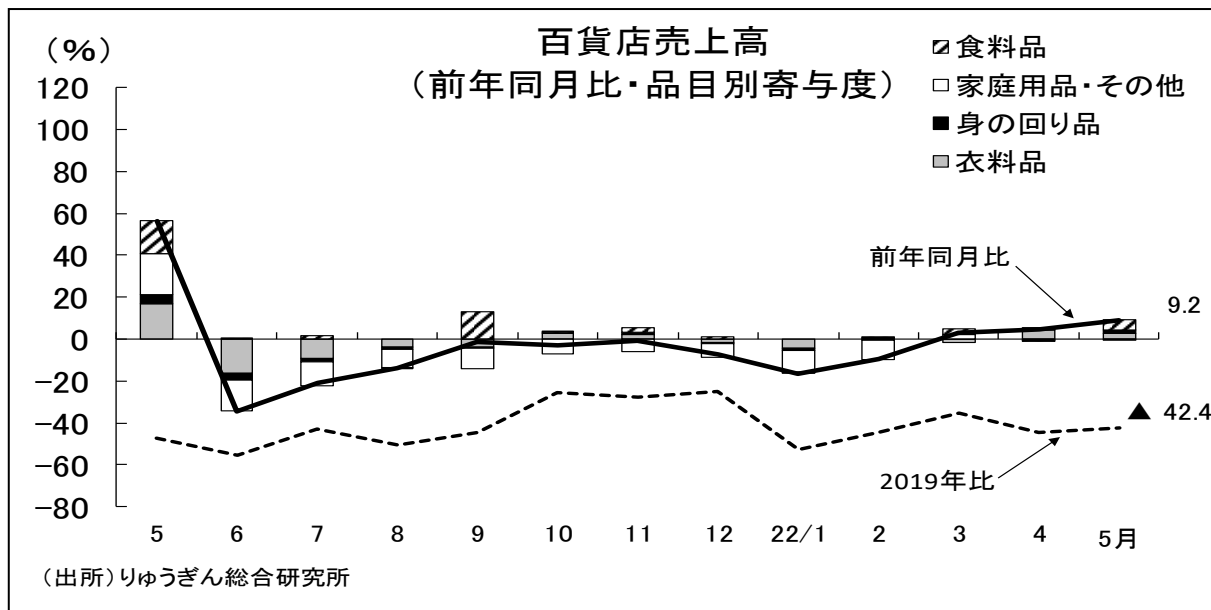


項目別グラフ(3カ月、2022年3月~2022年5月)



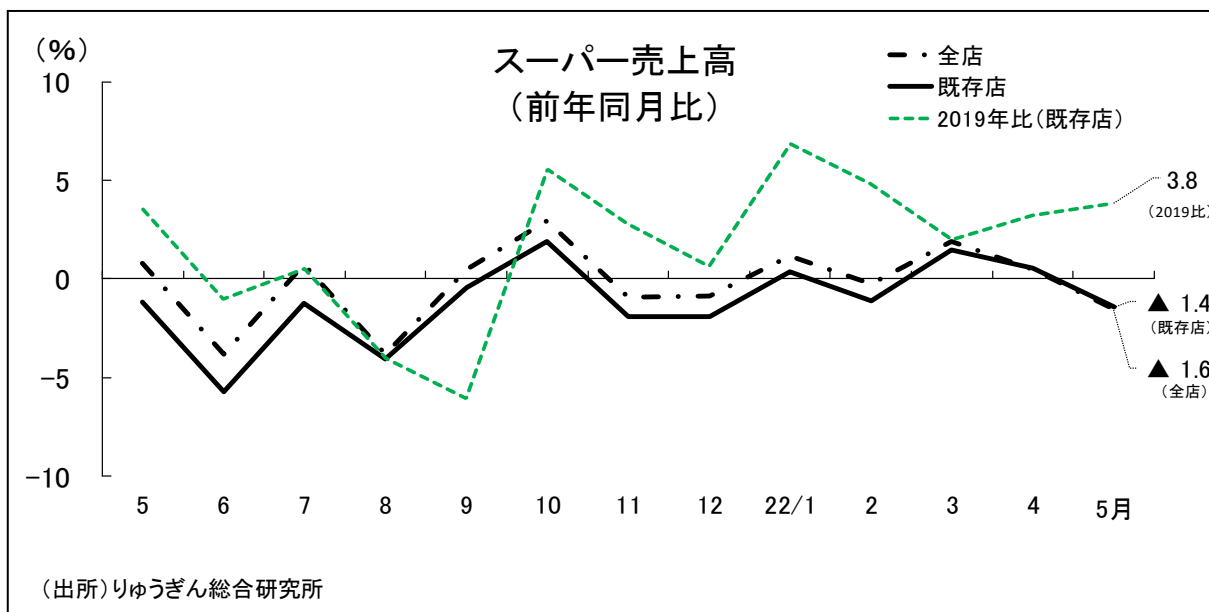
1. 消費関連

(1) 百貨店売上高：3カ月連続で増加



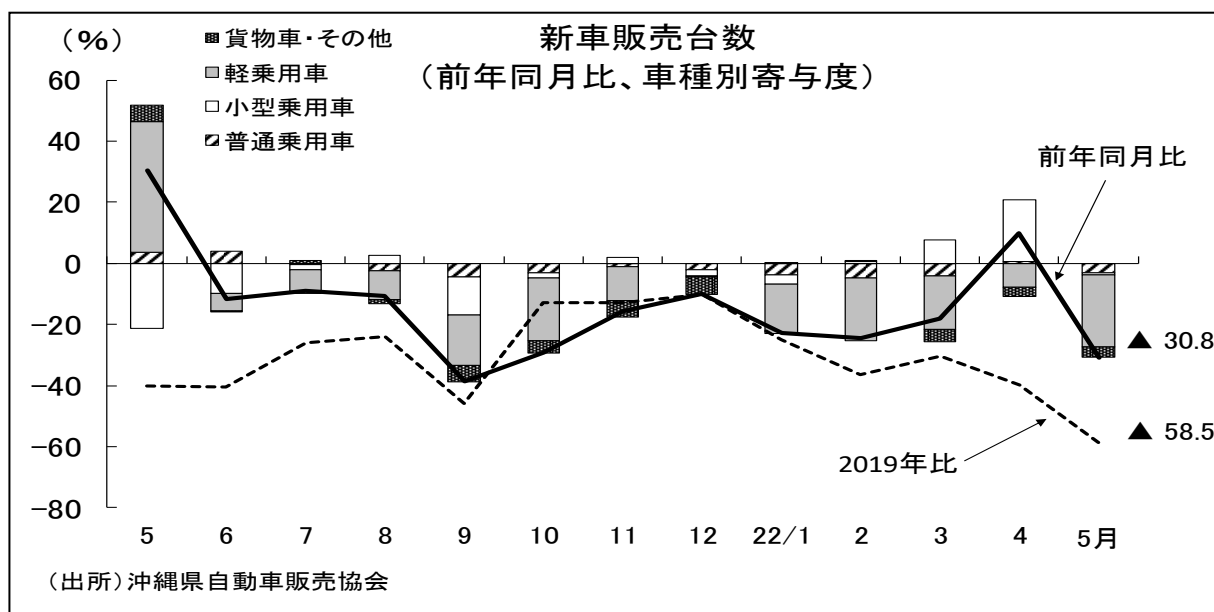
- 百貨店売上高は、前年同月比 9.2%増と3カ月連続で前年を上回った。降水量の増加に伴い来店客数の減少がみられたものの、母の日ギフト需要や催事企画による集客・買い回り効果がみられたことなどから前年を上回った。
- 品目別にみると、衣料品が同9.3%増、身の回り品が同21.0%増、食料品が同17.7%増、家庭用品・その他が同0.9%減となった。
- 新型コロナ以前の2019年と比較した伸び率は、42.4%の減少となった。

(2) スーパー売上高：全店ベースは2カ月ぶりに減少



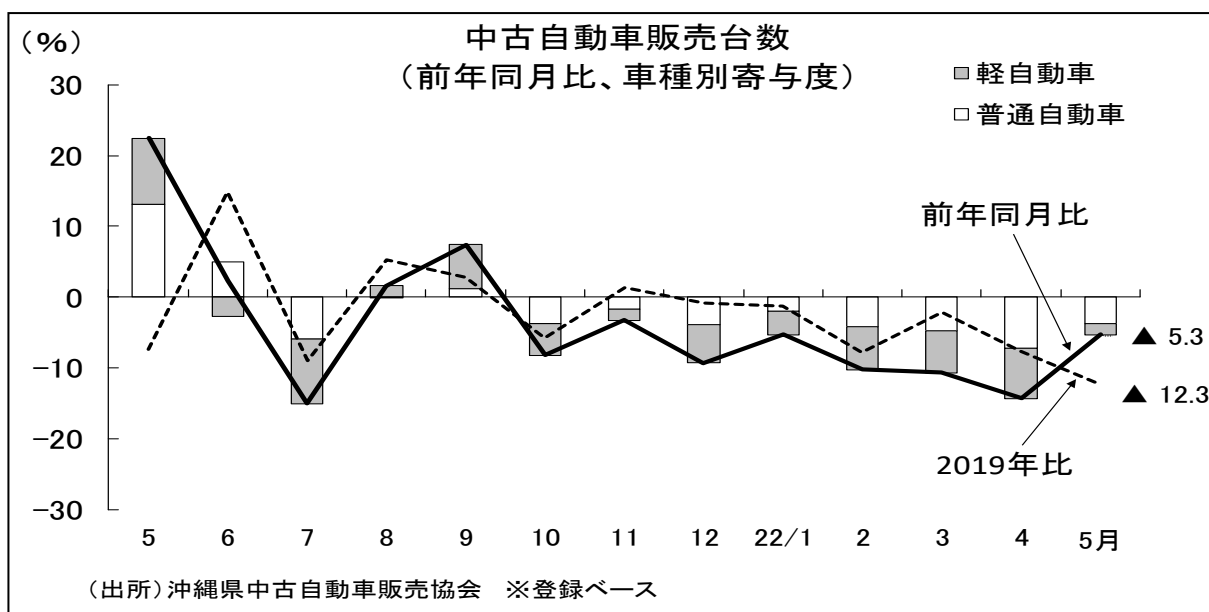
- スーパー売上高は、既存店ベースでは前年同月比 1.4%減と2カ月ぶりに前年を下回った。
- 降水量の増加に伴い気温が低く推移したことなどから衣料品は同3.9%減となった。食料品は同1.2%減、住居関連は同1.8%減となった。
- 全店ベースでは同1.6%減と2カ月ぶりに前年を下回った。
- 新型コロナ以前の2019年と比較すると、既存店ベースでは3.8%の増加となった。

(3) 新車販売台数：2カ月ぶりに減少



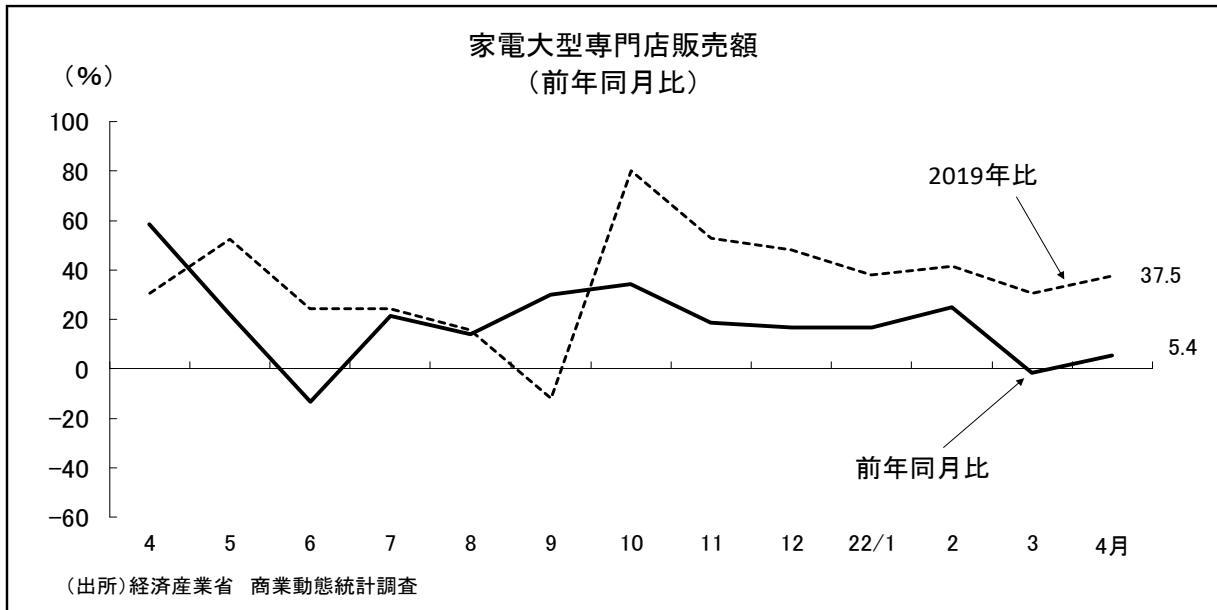
- ・ 新車販売台数は1,948台で前年同月比30.8%減と2カ月ぶりに前年を下回った。長引く半導体不足や、上海ロックダウンによる部品調達難などが影響し前年を下回った。
- ・ 普通自動車（登録車）は814台（同13.5%減）で、うち普通乗用車は332台（同20.8%減）、小型乗用車は370台（同5.4%減）であった。軽自動車（届出車）は1,134台（同39.4%減）で、うち軽乗用車は861台（同43.5%減）であった。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較した伸び率は、58.5%の減少となった。

(4) 中古自動車販売台数（登録ベース）：8カ月連続で減少



- ・ 中古自動車販売台数（普通自動車及び軽自動車の合計、登録ベース）は1万7,125台で前年同月比5.3%減と8カ月連続で前年を下回った。
- ・ 内訳では普通自動車は6,462台（同9.5%減）、軽自動車は1万663台（同2.6%減）となった。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較した伸び率は、12.3%の減少となった。

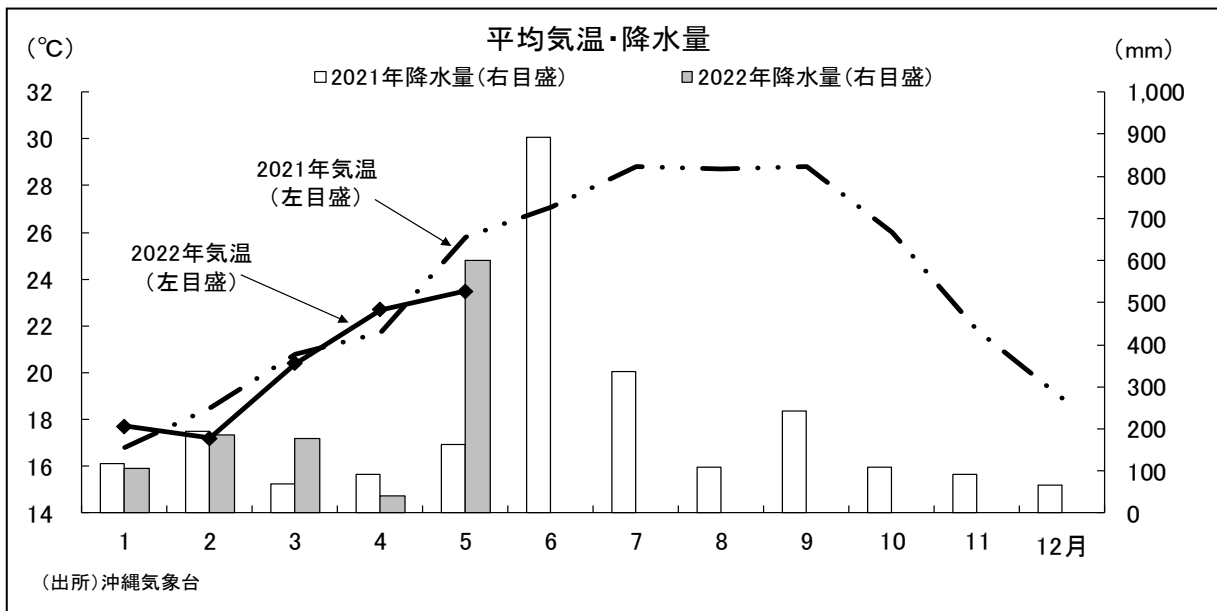
(5) 家電大型専門店販売額：2カ月ぶりに増加



- ・ 家電大型専門店販売額（4月）は、前年同月比 5.4%増と2カ月ぶりに前年を上回った。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較した伸び率は、37.5%の増加となった。

(参考)

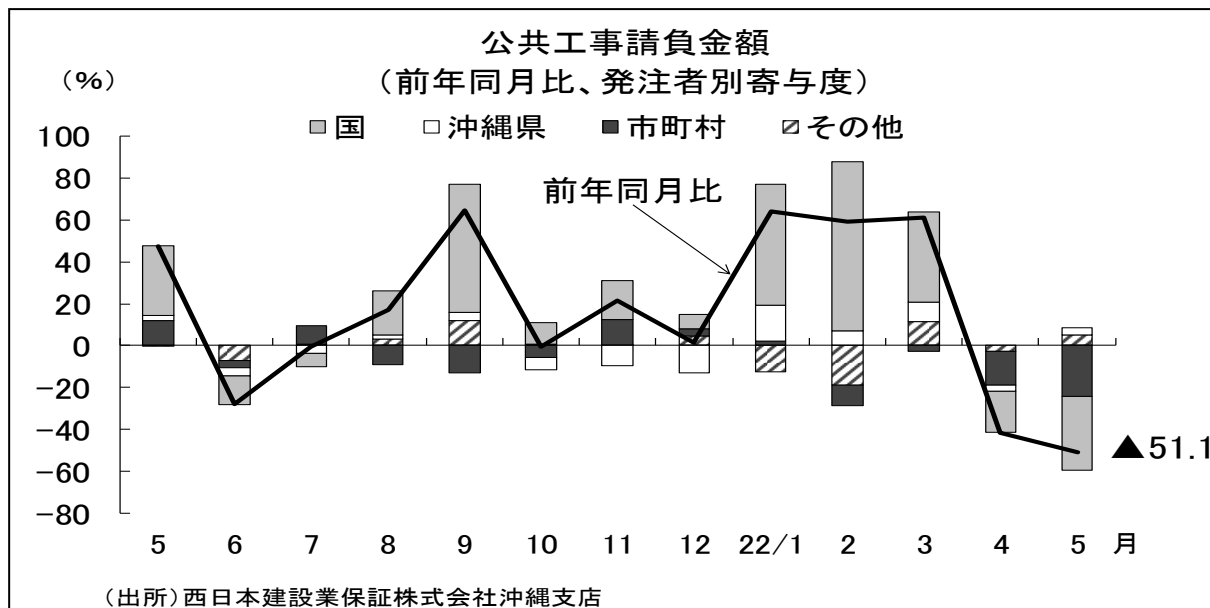
◇ 気象: 平均気温・降水量（那覇）



- ・ 平均気温は 23.5°C となり、前年同月 (25.8°C) より低く、降水量は 601.5mm で前年同月 (163.5 mm) より多かった。
- ・ 停滞する梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が続き、大雨や荒れた天気となったところがあった。平均気温は平年より低く、降水量は平年よりかなり多く、日照時間は平年よりかなり少なかった。

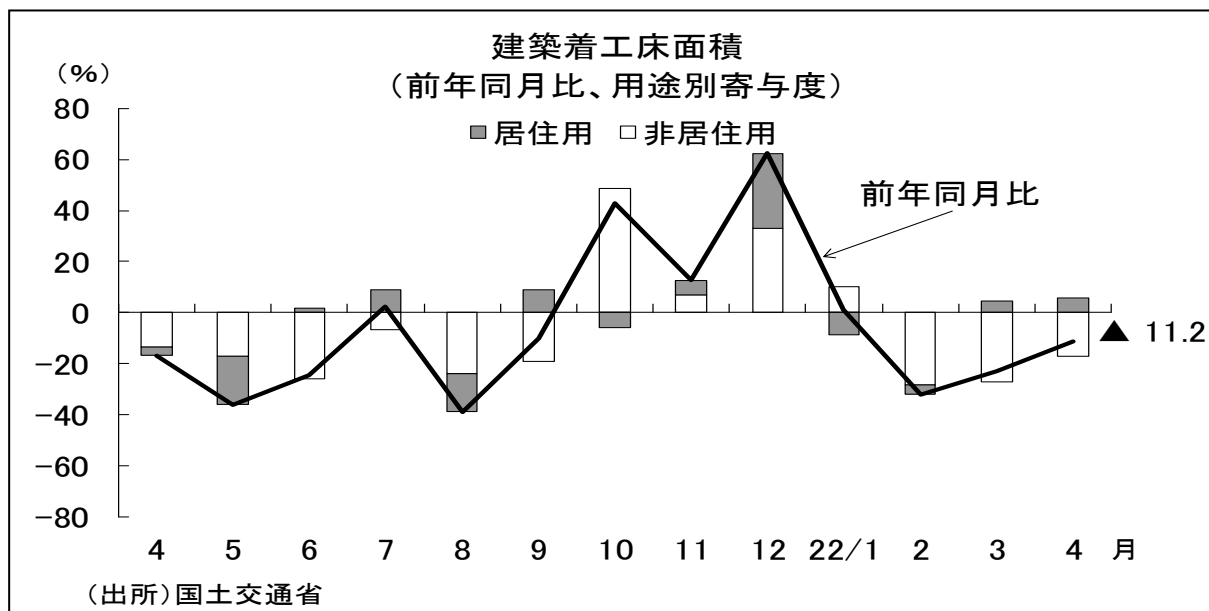
2. 建設関連

(1) 公共工事請負金額：2カ月連続で減少



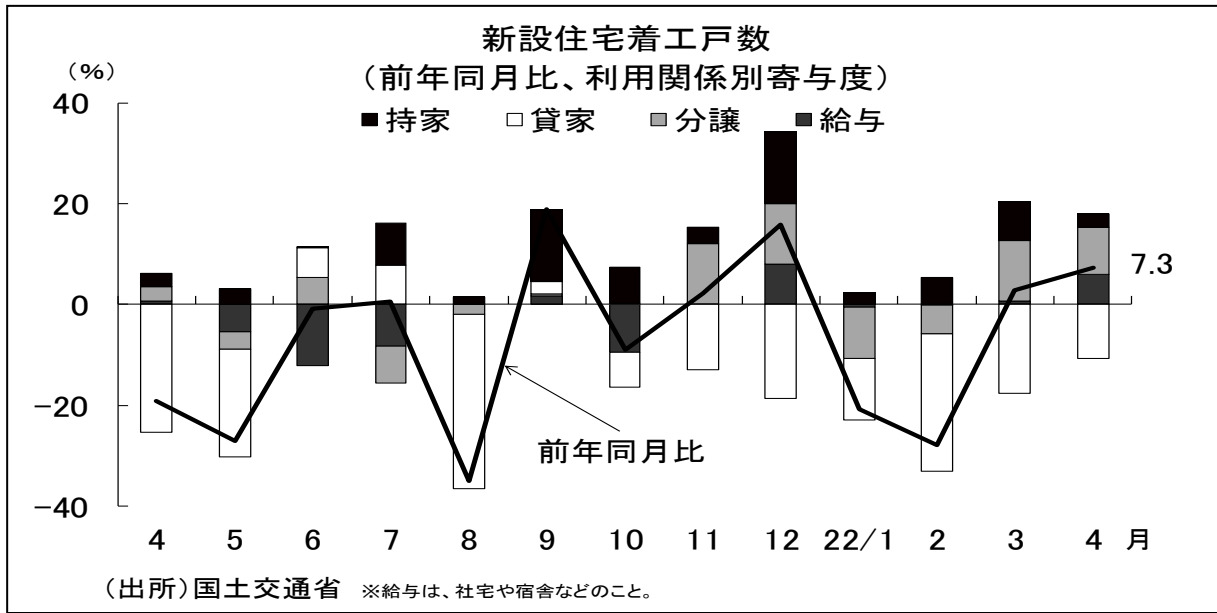
- 公共工事請負金額は、137 億 3,262 万円で、県、独立行政法人等・その他は増加したが、国、市町村は減少したことから前年同月比 51.1%減となり、2カ月連続で前年を下回った。
- 発注者別では、県 (同 18.2%増)、独立行政法人等・その他 (同 128.9%増) は増加し、国 (同 76.8%減)、市町村 (同 76.6%減) は減少した。

(2) 建築着工床面積：3カ月連続で減少



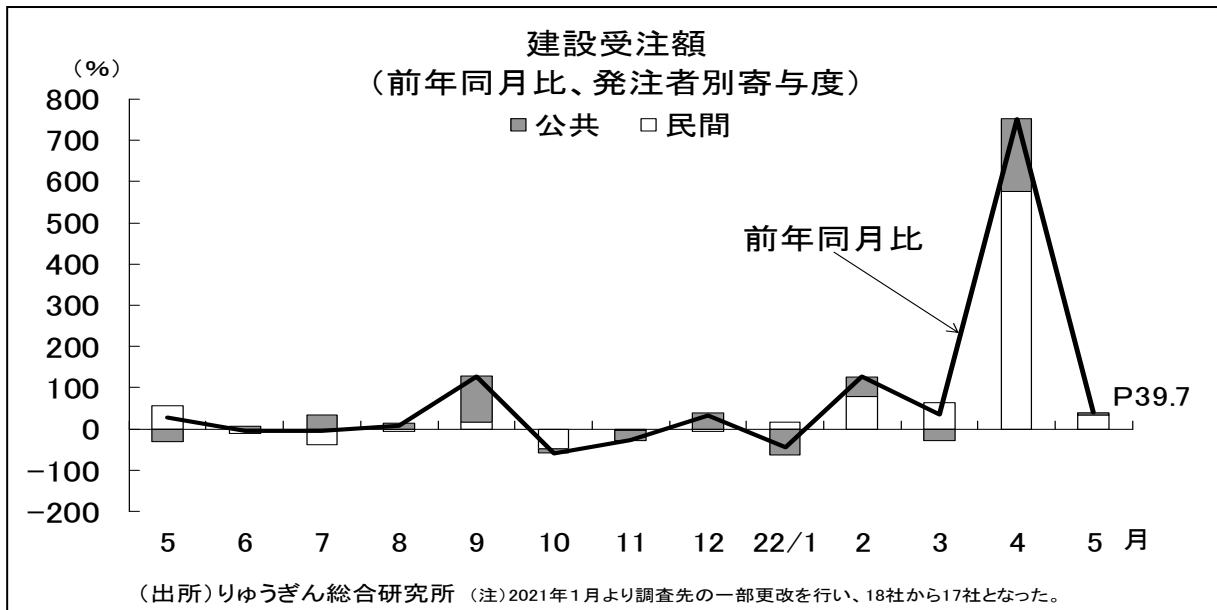
- 建築着工床面積 (4月) は 13 万 38 ㎡となり、居住用は増加したものの、非居住用は減少したことから前年同月比 11.2%減と 3カ月連続で前年を下回った。用途別では、居住用は同 11.8%増となり、非居住用は同 34.0%減となった。
- 建築着工床面積を用途別 (大分類) にみると、居住用では、居住専用は増加し、居住産業併用は減少した。非居住用では、飲食店・宿泊業用などが増加し、医療、福祉用や金融・保険業用などが減少した。

(3) 新設住宅着工戸数：2カ月連続で増加



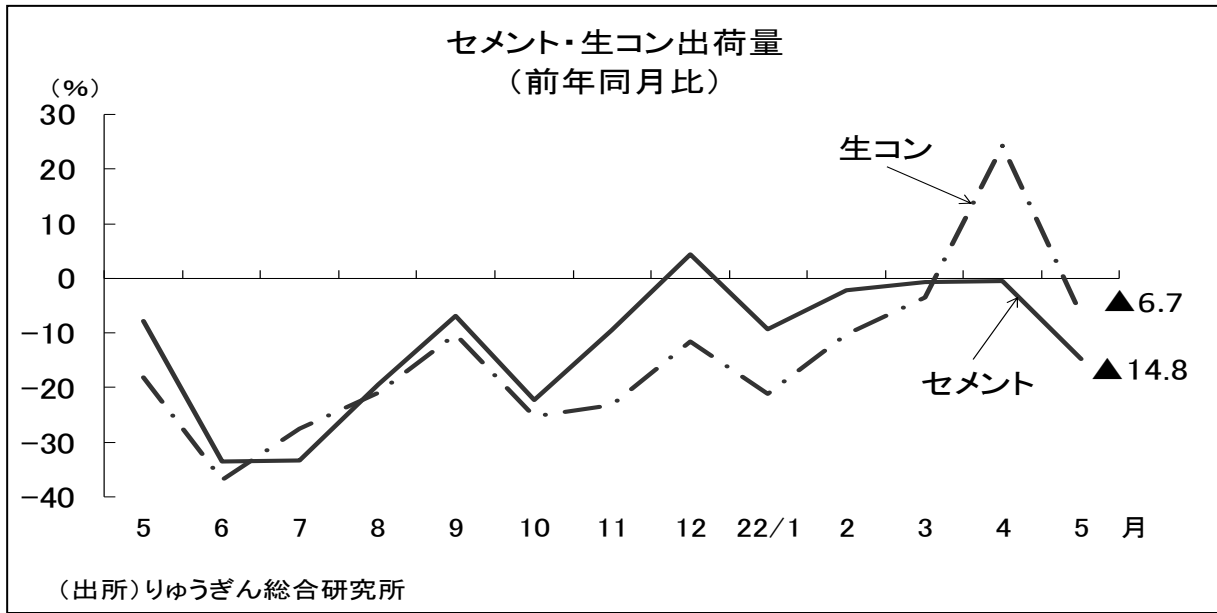
- 新設住宅着工戸数（4月）は980戸となり、貸家は減少したが、持家、分譲、給与は増加したことから前年同月比7.3%増と2カ月連続で前年を上回った。
- 利用関係別では、持家（243戸）が同11.5%増、分譲（330戸）が同34.7%増、給与（62戸）が同785.7%増と増加し、貸家（345戸）が同22.1%減と減少した。

(4) 建設受注額：4カ月連続で増加



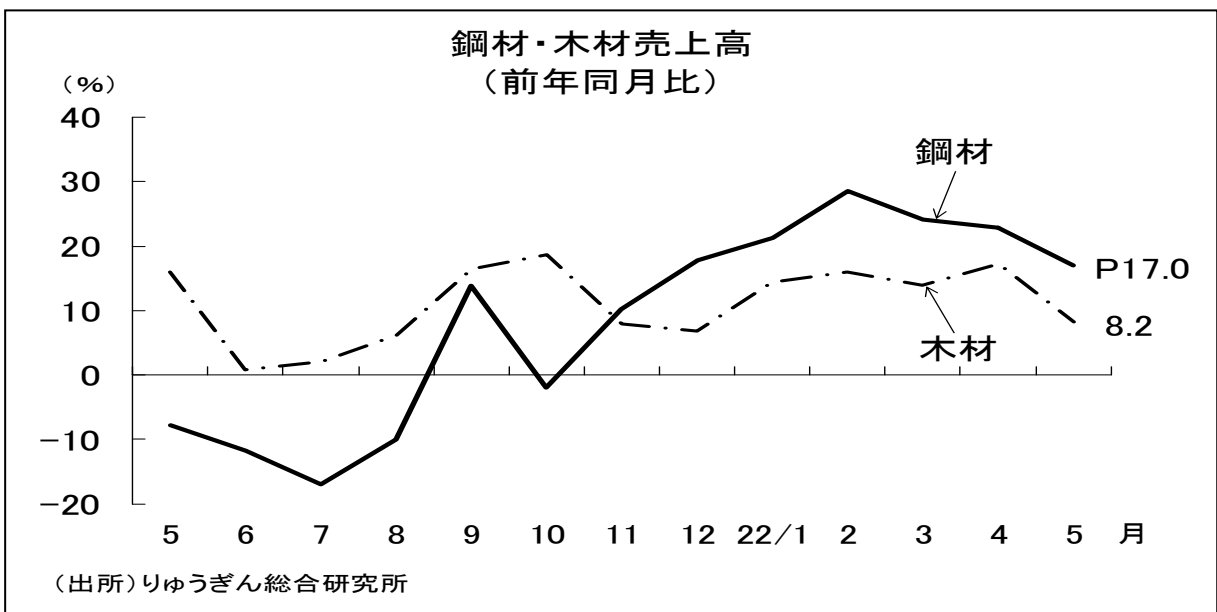
- 建設受注額（調査先建設会社：17社、速報値）は、公共工事、民間工事ともに増加したことから、前年同月比39.7%増と4カ月連続で前年を上回った。
- 発注者別では、公共工事（同44.2%増）は2カ月連続で増加し、民間工事（同38.9%増）は5カ月連続で増加した。

(5) セメント・生コン：セメントは5カ月連続で減少、生コンは2カ月ぶりに減少



- ・ セメント出荷量は4万6,463トンとなり、前年同月比14.8%減と5カ月連続で前年を下回った。
- ・ 生コン出荷量は7万8,719m³で同6.7%減となり、2カ月ぶりに前年を下回った。
- ・ 生コン出荷量を出荷先別にみると、公共工事では、一般土木向けなどが増加し、学校関連向けや公共施設向けなどが減少した。民間工事では、社屋関連向けなどが増加し、一般土木向けや商業施設向けなどが減少した。

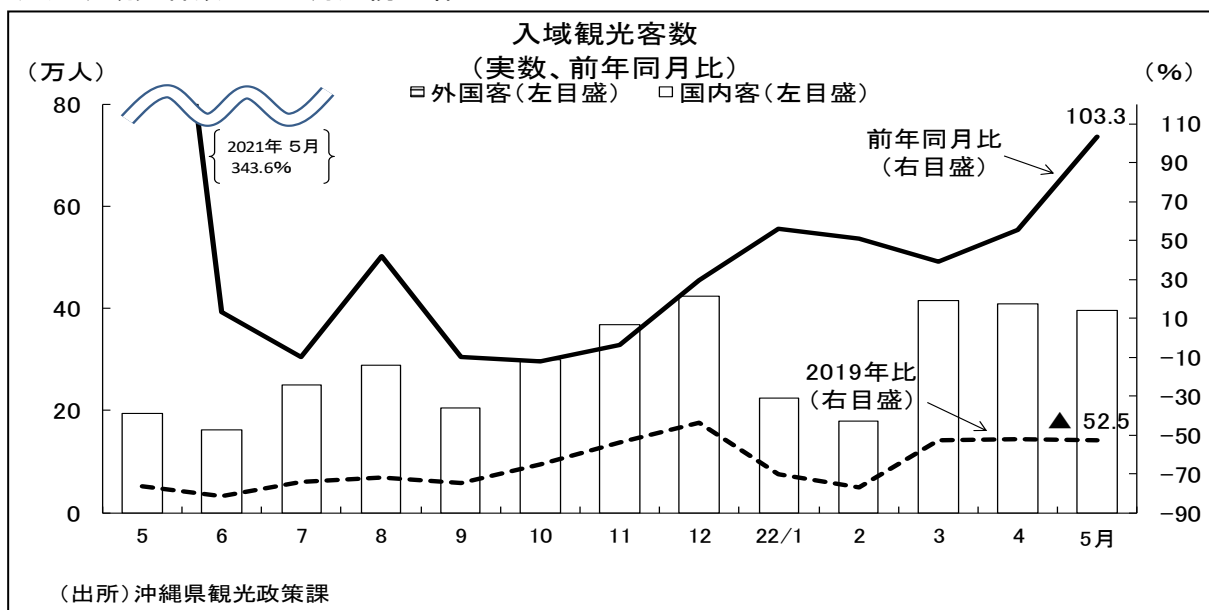
(6) 鋼材・木材：鋼材は7カ月連続で増加、木材は13カ月連続で増加



- ・ 鋼材売上高（速報値）は、鉄スクラップなど原材料の需給ひっ迫により単価の上昇がみられることなどから前年同月比17.0%増と7カ月連続で前年を上回った。
- ・ 木材売上高は、需給ひっ迫により木材価格が上昇したことなどから同8.2%増と13カ月連続で前年を上回った。

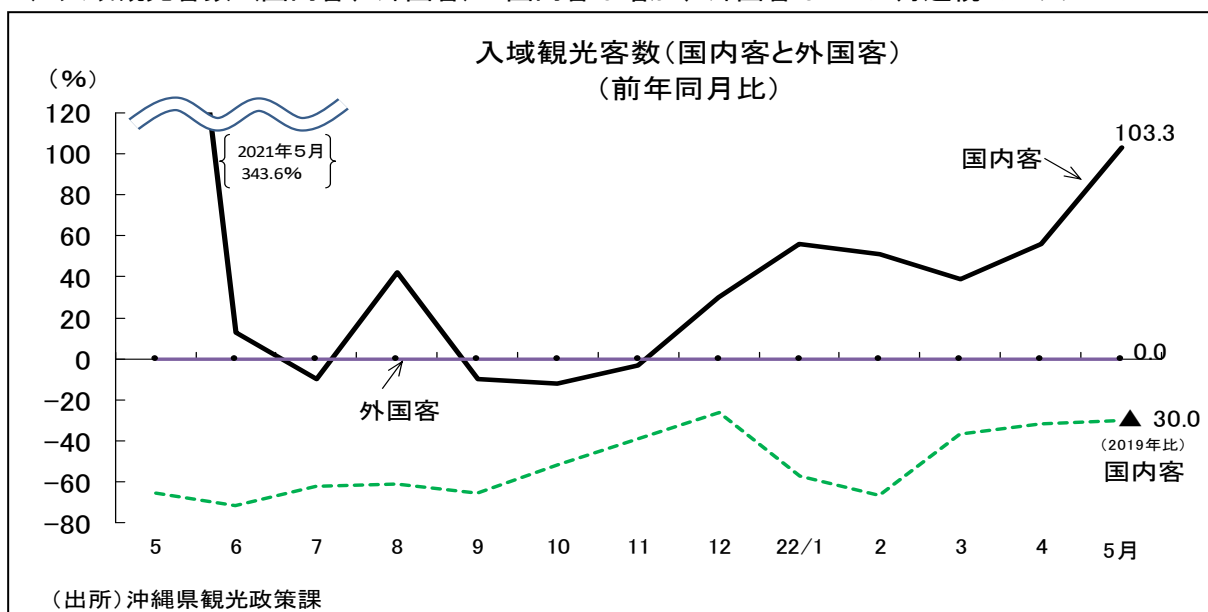
3. 観光関連

(1) 入域観光客数：6カ月連続で増加



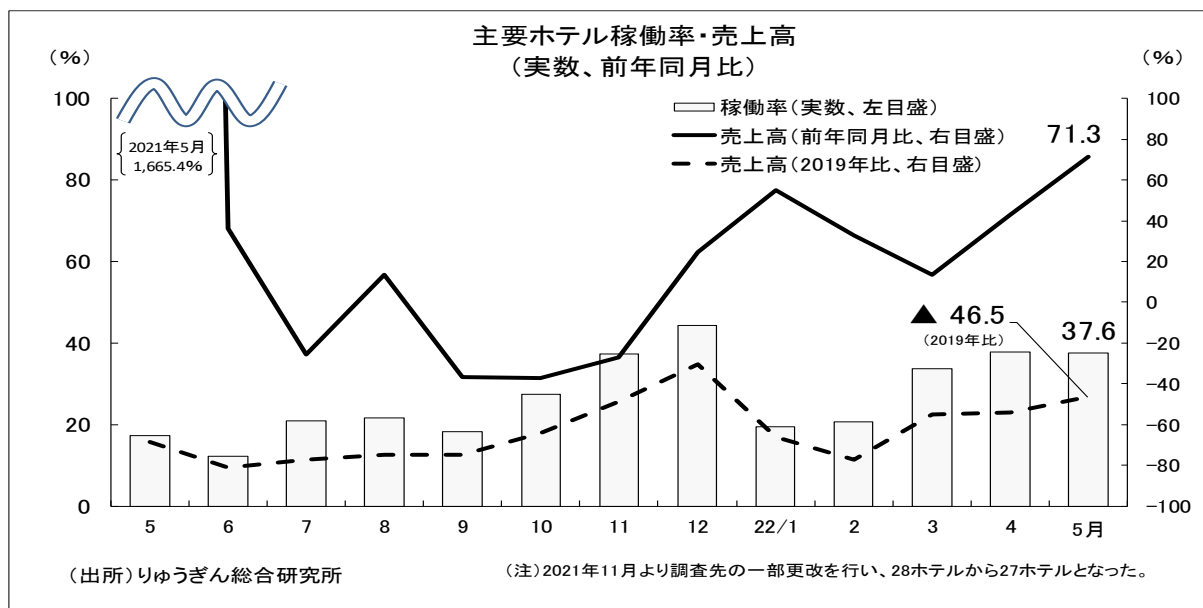
- 入域観光客数は、39万6,800人(前年同月比103.3%増)となり、6カ月連続で前年を上回った。
- 路線別では、空路は39万7,800人(同103.5%増)となり6カ月連続で前年を上回った。海路は1,400人(同55.6%増)となり4カ月連続で前年を上回った。
- 前年同月とは異なり行動制限がなく旅行需要が徐々に回復するなか、減便規模の縮小やワクチン接種の普及も後押しとなり前年比は上昇した。
- 新型コロナ以前の2019年と比較した伸び率は52.5%の減少となった。

(2) 入域観光客数(国内客、外国客)：国内客は増加、外国客は26カ月連続で0人



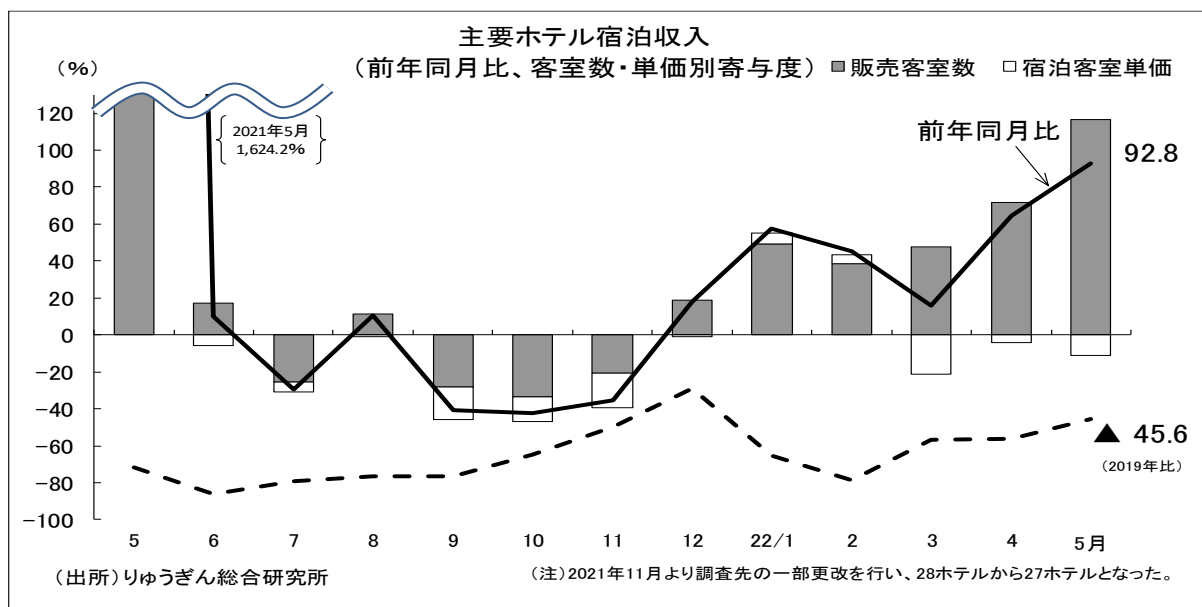
- 国内客は、39万6,800人(前年同月比103.3%増)となり、6カ月連続で前年を上回った。
- 外国客は、2020年4月以降26カ月連続で0人となった。
- 新型コロナ以前の2019年と比較した伸び率は、国内客は30.0%の減少、外国客は全減となった。

(3) 主要ホテル稼働率・売上高：稼働率、売上高ともに6カ月連続で増加



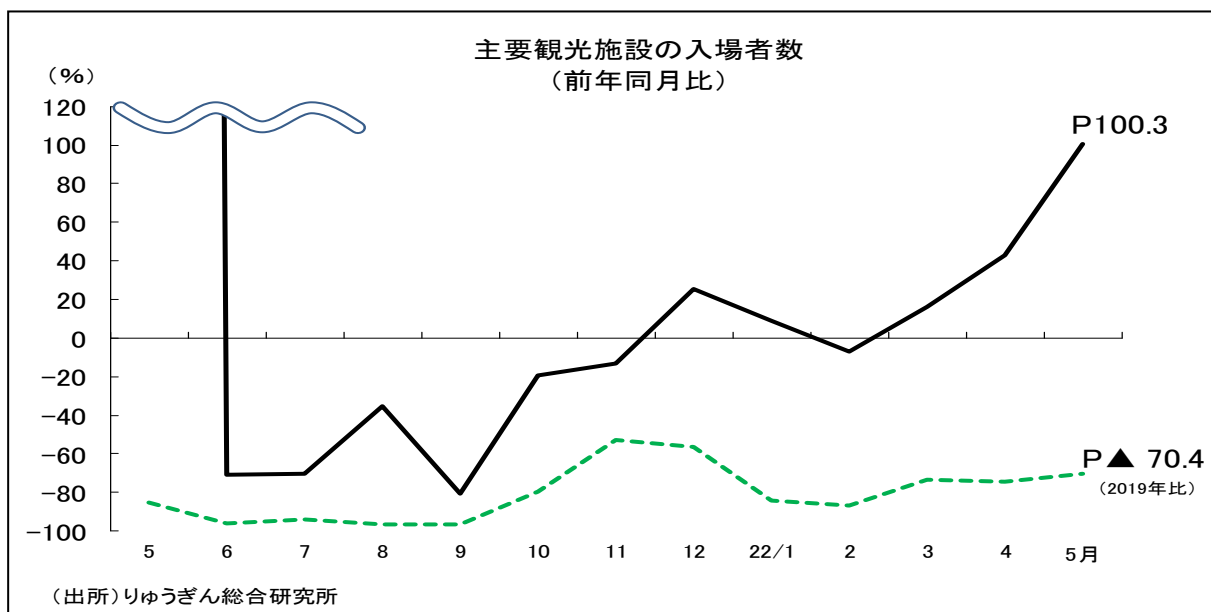
- ・ 主要ホテルは、客室稼働率は37.6%と前年同月差20.2%ポイント上昇、売上高は前年同月比71.3%増となり、稼働率、売上高ともに6カ月連続で前年を上回った。
- ・ 那覇市内ホテルの客室稼働率は43.6%と同26.5%ポイント上昇、売上高は同112.1%増となった。リゾート型ホテルの客室稼働率は35.4%と同17.9%ポイント上昇、売上高は同65.7%増となり、那覇市内、リゾートともに稼働率、売上高ともに6カ月連続で前年を上回った。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較した売上高は、全体は46.5%の減少、那覇市内ホテルは55.1%減少、リゾート型ホテルは44.7%減少となった。

(4) 主要ホテル宿泊収入：6カ月連続で増加



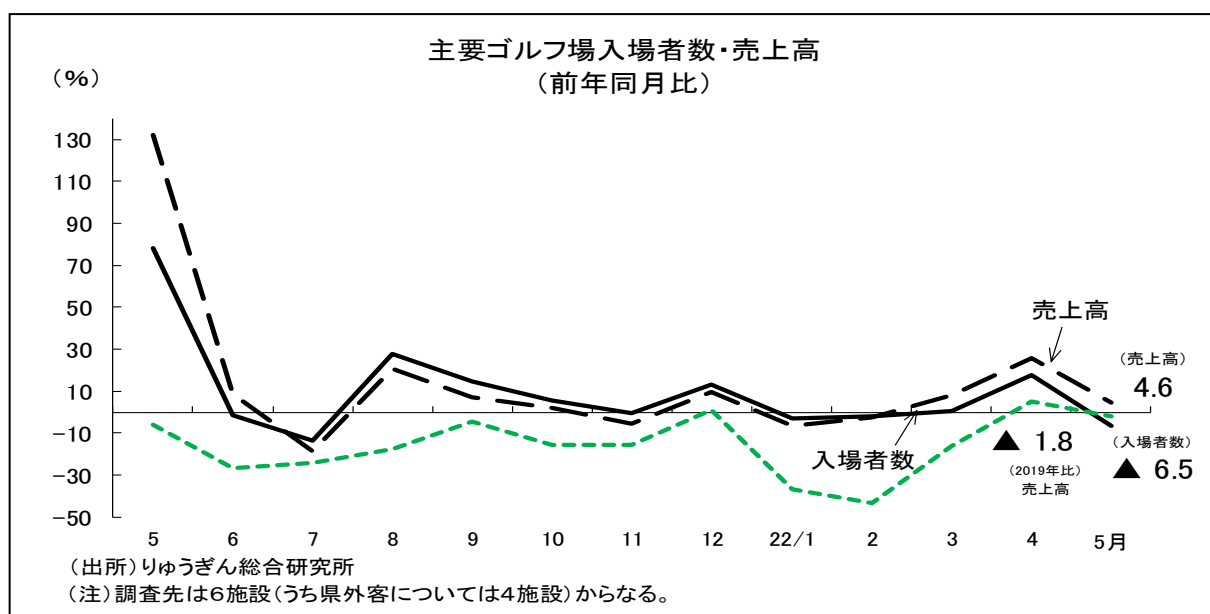
- ・ 主要ホテル売上高のうち宿泊収入は、販売客室数(数量要因)増加、宿泊客室単価(価格要因)は低下し、前年同月比92.8%増と6カ月連続で前年を上回った。
- ・ 那覇市内ホテルは販売客室数が増加、宿泊客室単価は低下し、同109.4%増と6カ月連続で前年を上回った。リゾート型ホテルは販売客室数が増加、宿泊客室単価は低下し、同90.6%増と6カ月連続で前年を上回った。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較した宿泊収入は、全体は45.6%の減少、那覇市内ホテルは59.8%減少、リゾート型ホテルは42.7%減少となった。

(5) 主要観光施設の入場者数：3カ月連続で増加



- ・ 主要観光施設の入場者数(速報値)は、前年同月比 100.3%増と3カ月連続で前年を上回った。
- ・ 前年同月は下旬より緊急事態宣言下で県立施設が閉館となっていた反動に加え、ゴールデンウィークなどで旅行者増加による観光施設利用が増加した。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較した入場者数は、70.4%の減少となった。

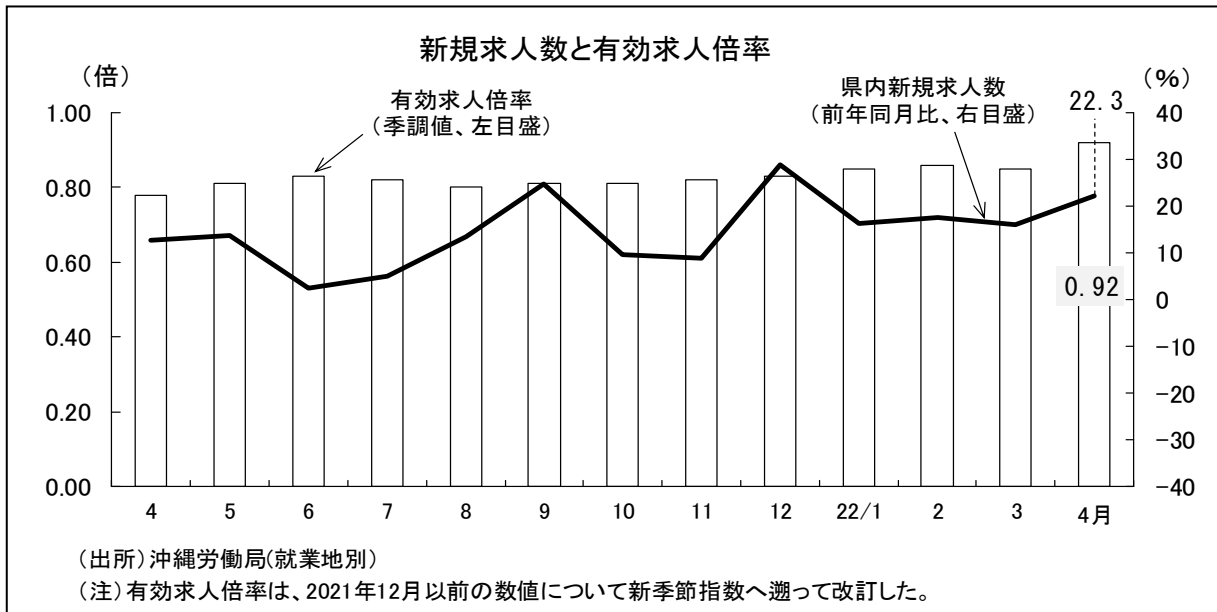
(6) 主要ゴルフ場入場者数・売上高：入場者数は3カ月ぶりに減少、売上高は3カ月連続で増加



- ・ 主要ゴルフ場の入場者数は、前年同月比 6.5%減と3カ月ぶりに前年を下回った。県内客は2カ月ぶりに前年を下回り、県外客は7カ月連続で前年を上回った。売上高は同 4.6%増と3カ月連続で前年を上回った。
- ・ 予約状況は好調だったものの悪天候によるキャンセルが多く入場者数は前年比減少に転じた。一方で県外客の増加に伴い客単価は高くなり売上増加に繋がった。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較すると、入場者数は6.5%減少(県内客は増加、県外客は減少)、売上高は1.8%の減少となった。

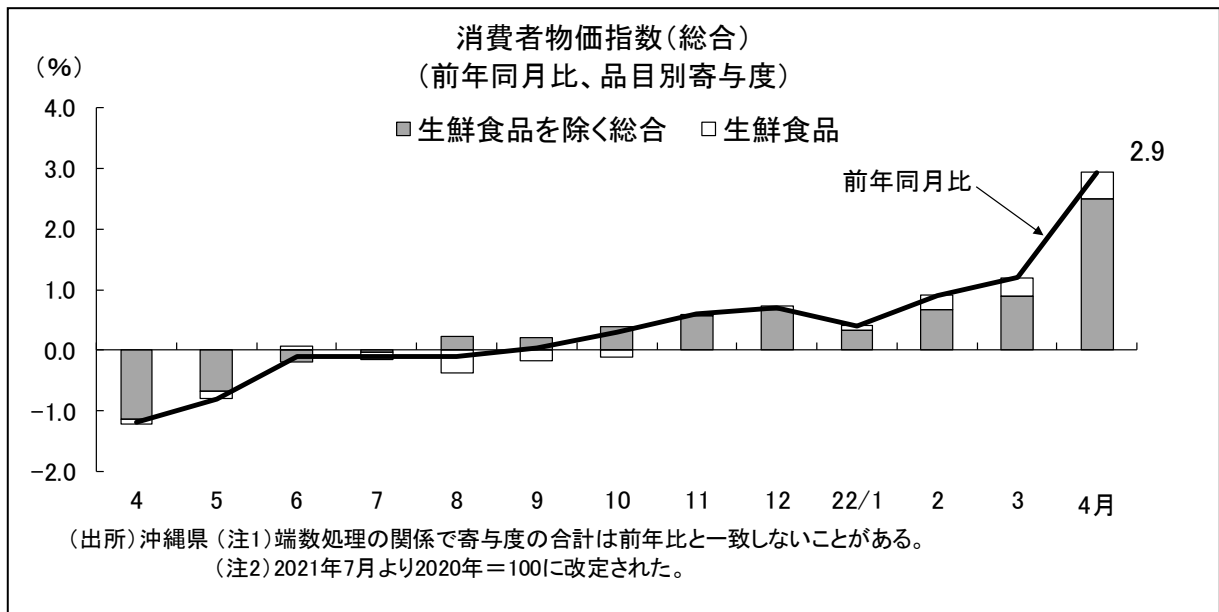
4. その他

(1) 雇用関連（再掲）：新規求人数は増加、有効求人倍率（季調値）は上昇



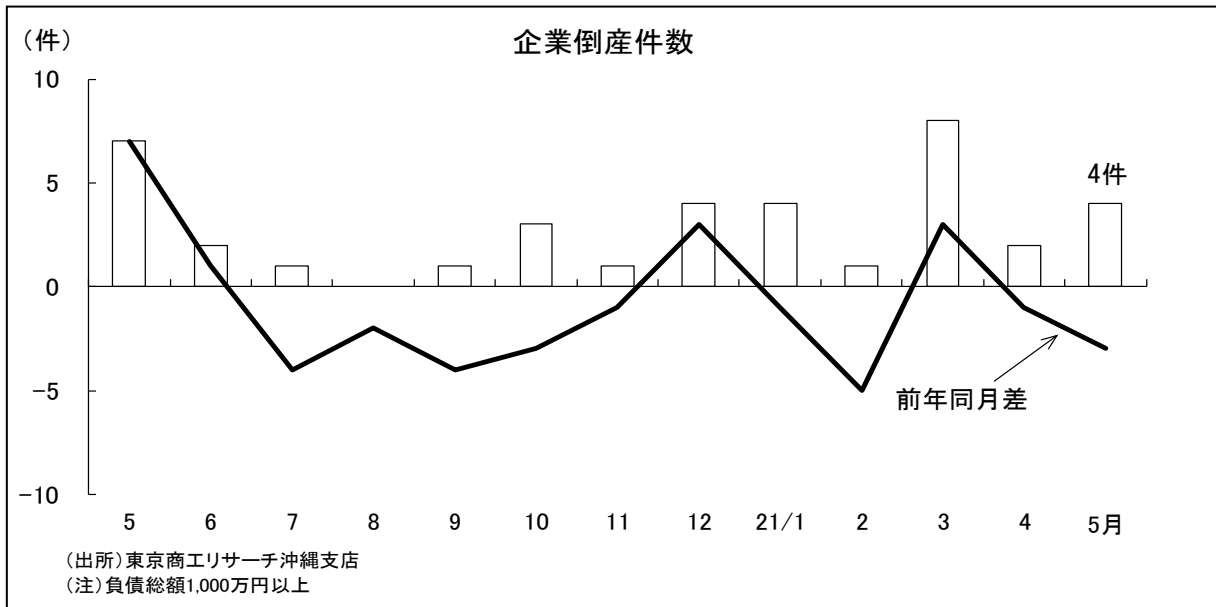
- ・ 新規求人数（4月）は、前年同月比 22.3%増となり 13 カ月連続で前年を上回った。産業別にみると、サービス業、宿泊業・飲食サービス業などで増加した。有効求人倍率（4月、季調値）は 0.92 倍で、前月より 0.07 ポイント上昇した。
- ・ 労働力人口（4月）は、77 万 9,000 人で同 2.1%増となり、就業者数は、75 万 7,000 人で同 3.0%増となった。完全失業者数（4月）は 2 万 2,000 人で同 21.4%減となり、完全失業率（4月、季調値）は 2.9%と、前月より 0.3 ポイント低下した。

(2) 消費者物価指数（再掲）：7 カ月連続で上昇



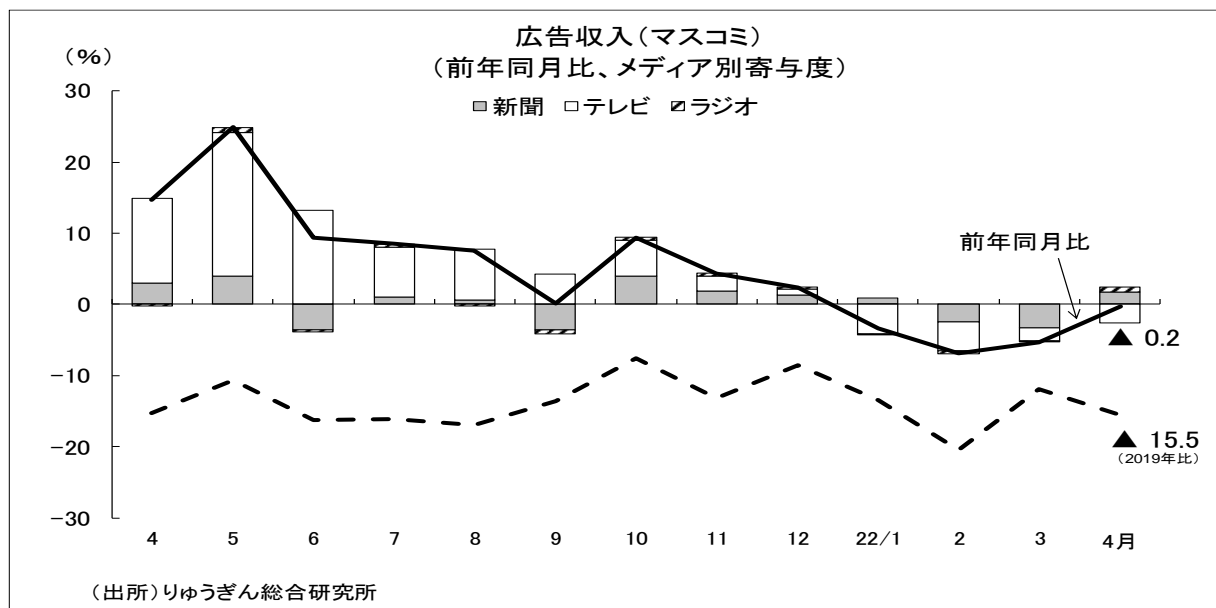
- ・ 消費者物価指数（4月）は、前年同月比 2.9%の上昇となり、7 カ月連続で前年を上回った。生鮮食品を除く総合は同 0.7%の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合は同 0.7%の上昇となった。
- ・ 品目別の動きをみると、光熱・水道、食料などは上昇し、保険・医療などは下落した。

(3) 企業倒産：件数、負債総額ともに減少



- ・ 倒産件数は、4件で前年同月を3件下回った。業種別では、小売1件（同数）、サービス業他3件（同2件増）となった。
- ・ 負債総額は1億2,000万円で、前年同月比91.2%減となった。

(4) 広告収入（マスコミ）：4カ月連続で減少



- ・ 広告収入（マスコミ：4月）は、前年同月比0.2%減と4カ月連続で前年を下回った。
- ・ 沖縄復帰50周年に向けた特集など好材料もあったが、イベント等の開催には慎重な動きもあり、前年比減少となった。
- ・ 新型コロナ以前の2019年と比較すると、15.5%の減少となった。

沖縄県内の主要経済指標……………17

〃 金融統計……………19

沖縄県内の主要経済指標(その1)

暦年	百貨店 売上高	スーパー 売上高 (既存店)	スーパー 売上高 (全店)	家電大型 専門店 販売額	新車販売 台数	中古自動 車販売台 数	公共工事請負額		建築着工床面積	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	百万円	前年比	千平米	前年比
2019	▲ 4.8	▲ 0.1	1.4	4.3	▲ 0.7	3.6	326,534	▲ 5.8	1,849	▲ 19.4
2020	▲ 35.1	0.4	2.5	5.6	▲ 17.1	0.5	308,119	▲ 5.6	1,555	▲ 15.9
2021	▲ 7.9	▲ 1.7	▲ 0.2	21.2	▲ 11.0	1.7	344,381	11.8	1,571	1.0
2021 4	113.0	▲ 2.3	▲ 0.3	58.5	▲ 9.5	14.6	28,352	21.3	146	▲ 16.8
5	56.4	▲ 1.2	0.8	22.1	30.4	22.4	28,056	47.3	87	▲ 36.1
6	▲ 34.3	▲ 5.7	▲ 3.8	▲ 13.3	▲ 11.7	2.3	21,608	▲ 27.9	122	▲ 24.5
7	▲ 20.8	▲ 1.2	0.7	21.6	▲ 9.1	▲ 15.0	44,439	▲ 0.3	129	2.2
8	▲ 13.7	▲ 4.1	▲ 3.8	13.8	▲ 10.5	1.5	35,562	17.2	90	▲ 38.9
9	▲ 1.2	▲ 0.4	0.5	29.9	▲ 38.7	7.4	53,814	64.3	89	▲ 10.1
10	▲ 3.0	1.9	2.9	34.2	▲ 29.3	▲ 8.2	26,721	▲ 0.6	200	42.8
11	▲ 0.5	▲ 1.9	▲ 0.9	18.5	▲ 15.6	▲ 3.3	21,981	21.6	127	12.7
12	▲ 7.2	▲ 1.9	▲ 0.9	16.6	▲ 10.1	▲ 9.3	17,959	1.6	136	62.5
2022 1	▲ 16.3	0.3	1.2	16.6	▲ 22.7	▲ 5.3	26,815	64.1	123	1.3
2	▲ 9.3	▲ 1.1	▲ 0.3	24.9	▲ 24.4	▲ 10.3	24,548	58.9	82	▲ 32.0
3	3.3	1.5	1.9	▲ 1.7	▲ 18.2	▲ 10.7	54,839	60.8	156	▲ 22.9
4	4.6	0.5	0.5	5.4	9.9	▲ 14.3	16,593	▲ 41.5	130	▲ 11.2
5	9.2	▲ 1.4	▲ 1.6	-	▲ 30.8	▲ 5.3	13,732	▲ 51.1	-	-
出所	りゅうぎん総合研究所調べ				自販協	中古 自販協	西日本建設業保証 沖縄支店		国土交通省	

注) 2022年4月より家電卸売販売額から家電大型専門店販売額へと更改した。

注) 新車販売台数の出所は沖縄県自動車販売協会、中古自動車販売台数は沖縄県中古自動車販売協会。

暦年	新設住宅着工戸数		建設 受注額	セメント 出荷数量	生コン 出荷数量	鋼材 売上高	木材 売上高	観光施設 入場者数	ゴルフ場 入場者数	広告 収入
	戸	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2019	15,098	▲ 10.1	▲ 11.9	0.3	1.4	4.0	7.2	▲ 3.4	▲ 0.9	▲ 2.2
2020	10,703	▲ 29.1	3.1	▲ 10.0	▲ 10.4	▲ 11.6	▲ 11.6	▲ 72.1	▲ 7.6	▲ 15.7
2021	9,668	▲ 9.7	▲ 10.6	▲ 15.4	▲ 21.1	▲ 5.7	3.1	▲ 42.1	8.6	3.9
2021 4	913	▲ 19.1	▲ 61.9	▲ 12.9	▲ 29.5	▲ 19.9	▲ 5.4	254.5	84.9	14.7
5	744	▲ 27.0	27.0	▲ 7.8	▲ 18.2	▲ 7.8	16.0	5,766.2	78.4	24.9
6	761	▲ 0.8	▲ 5.6	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 11.7	0.8	▲ 70.7	▲ 1.6	9.4
7	901	0.6	▲ 3.6	▲ 33.2	▲ 27.6	▲ 17.1	2.0	▲ 70.6	▲ 13.6	8.5
8	646	▲ 34.9	8.9	▲ 19.5	▲ 21.0	▲ 10.0	6.2	▲ 35.3	27.8	7.5
9	713	18.8	127.4	▲ 7.0	▲ 10.2	13.8	16.4	▲ 80.4	14.6	0.2
10	897	▲ 8.9	▲ 58.6	▲ 22.3	▲ 25.3	▲ 1.9	18.7	▲ 19.3	5.8	9.3
11	882	2.3	▲ 26.9	▲ 9.4	▲ 23.2	10.3	7.8	▲ 13.4	▲ 0.2	4.3
12	931	15.8	32.4	4.4	▲ 11.5	17.9	6.8	25.5	13.1	2.4
2022 1	633	▲ 20.7	▲ 44.9	▲ 9.3	▲ 21.1	21.3	14.3	9.0	▲ 3.0	▲ 3.3
2	542	▲ 27.8	P126.5	▲ 2.1	▲ 10.3	28.6	16.0	▲ 6.9	▲ 1.9	▲ 6.9
3	752	2.9	P35.1	▲ 0.7	▲ 3.5	24.1	13.9	16.1	0.2	▲ 5.3
4	980	7.3	P751.9	▲ 0.5	24.3	P22.8	17.3	43.1	17.8	▲ 0.2
5	-	-	P39.7	▲ 14.8	▲ 6.7	P17.0	8.2	P100.3	▲ 6.5	-
出所	国土交通省		りゅうぎん総合研究所調べ							

注) 建設受注額は、2021年1月より調査先を18社から17社とした。

注) ゴルフ場入場者数は、2021年4月より調査先を8ゴルフ場から6ゴルフ場とした。

沖縄県内の主要経済指標(その2)

暦年	入域観光客数		入域観光客数のうち外国客		ホテル稼働率(実数)		ホテル売上高(前年比)		鉱工業生産指数(季調値)	
	千人	前年比	千人	前年比	市内	リゾート	市内	リゾート	2015年=100	前年比
2019	10,163.9	3.2	2,930.0	0.9	80.9	69.7	▲ 1.3	▲ 3.4	87.1	▲ 3.2
2020	3,736.6	▲ 63.2	256.9	▲ 91.2	31.7	31.6	▲ 65.2	▲ 58.8	76.0	12.9
2021	3,016.7	▲ 19.3	0.0	▲ 100.0	24.3	22.2	▲ 30.4	▲ 20.0	-	-
2021 4	262.6	239.7	0.0	0.0	21.4	22.3	118.6	338.8	81.1	▲ 10.8
5	195.2	343.6	0.0	0.0	16.8	17.4	526.4	2,358.3	72.2	10.2
6	162.9	13.0	0.0	0.0	15.0	11.3	3.9	78.4	68.2	▲ 7.9
7	250.4	▲ 9.7	0.0	0.0	22.2	20.4	▲ 30.4	▲ 25.5	68.5	▲ 9.8
8	288.2	42.1	0.0	0.0	21.1	21.9	▲ 25.4	17.2	65.7	▲ 10.5
9	204.9	▲ 10.0	0.0	0.0	17.5	18.8	▲ 32.0	▲ 37.5	69.2	▲ 0.8
10	299.0	▲ 12.4	0.0	0.0	27.4	27.9	▲ 21.9	▲ 38.7	77.0	6.0
11	368.0	▲ 3.4	0.0	0.0	41.7	35.6	▲ 4.9	▲ 30.4	74.7	0.1
12	423.5	29.8	0.0	0.0	50.5	42.0	45.6	20.5	84.6	12.0
2022 1	224.6	56.0	0.0	0.0	22.2	18.3	34.0	59.9	76.2	▲ 0.8
2	179.1	50.8	0.0	0.0	26.9	18.3	5.3	44.0	73.7	▲ 2.9
3	415.7	38.9	0.0	0.0	43.1	30.4	16.1	13.2	77.0	▲ 6.2
4	409.0	55.8	0.0	0.0	42.0	36.3	42.7	42.7	-	-
5	396.8	103.3	0.0	0.0	43.6	35.4	112.1	65.7	-	-
出所	県文化観光スポーツ部 観光政策課				りゅうぎん総合研究所調べ				県企画部統計課	

注) ホテルは、2021年11月より調査先が28ホテルから27ホテルとした。

注) 2012年5月より外国客の入域観光客数を掲載した。

注) 鉱工業生産指数の暦年値、前年比は原指数の増減率。2019年4月より2015年=100に改定された。

暦年	企業倒産件数	負債総額		消費者物価指数	失業率(季調値)	就業者数	有効求人倍率(季調値)	新規求人数(県内)	通関輸出	通関輸入
	件	百万円	前年比	前年比	%	前年比	倍	前年比	百万円	百万円
2019	50	5,714	▲ 54.0	0.4	2.7	2.7	1.34	3.3	31,126	148,698
2020	34	3,640	▲ 36.3	▲ 0.3	3.3	0.1	0.90	▲ 27.2	30,063	120,799
2021	38	10,989	201.9	0.0	3.7	0.4	0.80	0.7	44,890	126,238
2021 4	3	37	23.3	▲ 0.4	3.9	2.9	0.78	12.7	16,931	7,333
5	7	1,359	100.0	▲ 0.2	3.4	0.8	0.83	13.6	1,879	9,946
6	2	337	▲ 31.2	0.5	3.7	0.0	0.88	2.5	1,823	7,891
7	1	154	▲ 82.1	▲ 0.1	4.5	▲ 0.7	0.84	4.9	1,327	11,308
8	0	0	▲ 100.0	▲ 0.1	3.6	0.4	0.79	13.6	1,720	23,380
9	1	26	▲ 69.0	0.0	3.2	0.6	0.80	24.8	1,966	7,481
10	3	434	20.6	0.3	2.4	1.0	0.80	9.7	4,299	14,005
11	1	320	267.8	0.6	3.4	0.7	0.81	8.9	5,492	11,252
12	4	1,803	1,948.9	0.7	3.8	1.9	0.82	28.8	2,126	12,528
2022 1	4	2,819	803.5	0.4	4.0	4.0	0.85	16.3	1,488	10,830
2	1	10	▲ 97.8	0.9	4.4	0.5	0.86	17.6	26,277	7,384
3	8	935	▲ 83.7	1.2	3.2	4.2	0.85	16.0	5,898	10,632
4	2	170	359.5	2.9	2.9	3.0	0.92	22.3	2,654	17,174
5	4	120	91.2	-	-	-	-	-	2,145	29,060
出所	東京商工リサーチ沖縄支店			県企画部統計課		沖縄労働局		沖縄地区税関		

注) 消費者物価指数は、2021年7月より2020年=100に改定された。

注) 失業率と有効求人倍率は、2020年12月以前の数値について新季節指数へ遡って改訂した。

注) 有効求人倍率(季調値)と新規求人数は、就業地ベース。

沖縄県内の金融統計

年度	銀行券 発行額	銀行券 還収額	銀行券 増減 (▲還収超)	貸出 金利 (地銀3行)	手形交換高(金額は億円)				不渡実数 (金額)	不渡 発生率
	億円	億円	億円	%	千枚	前年比	金額	前年比	百万円	%
2019FY	2,658	4,076	▲ 1,415	1.465	189	▲ 5.9	3,381	▲ 6.0	5	0.002
2020FY	3,019	2,812	206	1.399	165	▲ 13.1	3,016	▲ 10.8	7	0.002
2021FY	2,825	2,906	▲ 80	1.356	150	▲ 9.0	2,720	▲ 9.8	106	0.039
2021 4	316	180	136	1.385	14	▲ 7.2	251	▲ 13.6	3	0.012
5	130	284	▲ 154	1.374	13	5.2	242	8.7	0	0.000
6	233	239	▲ 6	1.371	14	▲ 17.3	257	▲ 14.5	0	0.000
7	245	200	45	1.369	12	▲ 20.3	199	▲ 29.9	0	0.000
8	219	225	▲ 6	1.367	14	0.9	281	7.7	0	0.000
9	215	250	▲ 35	1.366	12	▲ 4.7	216	▲ 7.8	0	0.001
10	224	212	11	1.362	11	▲ 16.8	184	▲ 12.4	1	0.005
11	200	197	2	1,364	14	▲ 6.1	243	▲ 9.5	61	0.250
12	510	191	319	1.356	12	▲ 8.7	197	▲ 9.6	6	0.032
2022 1	107	393	▲ 286	1.357	12	3.5	223	4.8	16	0.072
2	195	239	▲ 43	1.355	11	▲ 7.6	209	▲ 3.4	14	0.068
3	231	296	▲ 64	1.352	12	▲ 21.2	219	▲ 26.6	4	0.020
4	307	202	104	1.352	11	▲ 22.2	194	▲ 22.8	2	0.010
5	-	-	-	-	13	5.7	256	5.7	0	0.000
出所	日本銀行那覇支店				那覇手形交換所					

注) 銀行券増減は、端数調整により一致しない場合がある。

注) 貸出金利は、暦年ベース。

注) 不渡発生率は、不渡実数(金額)÷手形交換高(金額)×100

年度	地銀3行預金量 (信託勘定含む末残)		地銀3行融資量 (信託勘定含む末残)		県内金融機関 の預金残高 (末残)		沖縄振興開発 金融公庫融資量 (末残)		沖縄県信用保証協会 債務残高(末残)	
	億円	前年比	億円	前年比	億円	前年比	億円	前年比	億円	前年比
2019FY	49,931	2.6	39,293	1.8	50,358	2.5	8,641	0.6	1,225	1.9
2020FY	55,734	11.6	40,847	4.0	56,384	12.0	10,320	19.4	2,865	133.8
2021FY	58,037	4.1	41,033	0.5	58,716	4.1	10,428	1.0	3,005	4.9
2021 4	57,066	10.6	40,714	4.2	57,685	10.9	10,326	16.3	2,958	119.2
5	57,305	8.6	40,752	3.5	57,922	8.9	10,327	11.4	2,981	100.3
6	57,507	6.1	40,754	3.0	58,131	6.4	10,378	6.8	2,988	67.6
7	57,281	5.8	40,763	2.5	57,962	6.1	10,422	4.6	2,993	47.8
8	57,394	4.8	40,751	2.0	58,038	5.0	10,419	3.3	2,997	35.5
9	57,072	4.6	41,019	2.4	57,742	4.9	10,534	3.6	2,995	26.8
10	57,462	4.8	41,015	2.5	58,113	5.0	10,513	2.8	2,999	22.3
11	57,690	4.1	40,692	1.5	58,280	4.2	10,491	2.2	2,995	19.1
12	57,604	3.8	41,195	2.3	58,314	4.0	10,470	0.8	3,001	15.2
2022 1	57,616	4.2	40,793	1.2	58,275	4.2	10,456	0.8	3,002	12.1
2	57,626	3.6	40,798	0.4	58,247	3.5	10,444	0.6	3,000	10.3
3	58,037	4.1	41,033	0.5	58,716	4.1	10,428	1.0	3,005	4.9
4	59,647	4.5	40,678	▲ 0.1	60,284	4.5	10,480	1.5	2,985	0.9
5	59,517	3.9	40,922	0.4	-	-	10,449	1.2	-	-
出所	沖縄県銀行協会				日本銀行本店		沖縄振興開発金融 公庫		沖縄県信用保証協会	

注) 県内金融機関の預金残高は、19年2月分より日本銀行(本店)ホームページ上で公表している県内預金合計に遡及改訂した。